九州企業視察および九州支部交流会開催報告

関東支部
支部長　神山 裕司

九州－関東支部間の協業を促進

去る1月23日(木)、24日(金)に関東支部主催にて、九州企業視察および九州支部交流会を開催致しましたので報告します。

本視察の目的は、関東支部会員への九州地区ビジネスに関する情報提供と共に支部間交流を深めることで会員各位の新たなビジネス開拓のキッカケとなることを企図しました。

[開催概要]
日程：2020年1月23日(木)、24日(金)
会員参加人数：関東支部14名、九州支部5名
視察企業：株式会社三松、
　　大分朝日放送株式会社

初日は、工場のIoT化に取り組まれ九州内外で注目を集めている株式会社三松を視察しました。代表取締役 田名部徹朗様より、「三松スマートファクトリー構想」をご説明頂きました。三松は金属部品と機械組立の事業を主として創立された企業ですが、現在は半導体・液晶製造装置から微細な電子部品に至る金属部品の加工だけでなく、モノづくりに関わる製造・アッセンブリ・設計と事業を拡大し、1日30件を超える依頼を受け生産しているとの事です。オーダーに対して、「一個からでもお作りする」「品質にこだわる」「納期をきちんと守る」を信念としています。

受注量・製品・サービスが増えるにあたり「生産の改善活動」を進めてきた結果が、工場のIoT化へと繋がったそうです。社員の平均年齢が35歳と若く社内教育が整備されており、「三松大学」と呼ばれる技術教育で社員が一人三役を担えることを推進しています。忙しい部門の業務を全社員一丸となってフォローできることが工程毎のタイムラグを埋め、納期厳守に繋がっています。参加者からは普段見ることのない製造業の現場管理・生産管理状況を視察ができ、とても有意義であったとの感想を頂きました。

その後、博多へ移動し光安九州支部長を含めた九州支部会員5名、九州大学の福田主幹教授、特定非営利活動法人QUEST(旧名称「九州組込みソフトウェアコンソーシアム」)の芦原副理事長を含む4名の理事の方々に参加頂き、総勢24名にて支部間交流と九州地域の組込みの状況についてのヒアリング及び情報交換を行いました。各テーブルにて活発かつ熱いディスカッションが行われ、支部間交流の意義が表れました。

2日目は、全国の放送局に先駆けフルハイビジョンの4倍の画素数となる「4K」に対応した編集センターを開設し注目を集めている、大分朝日放送株式会社を視察致しました。初めに役員待遇技術担当の塩川技術局長より御挨拶頂いた後、技術局澤村副部長より大分朝日放送の取組みについてご説明頂きました。

その後、澤村副部長と泥谷総務局長の2班に分かれて局内を案内頂きました。大分朝日放送は撮影から編集，音声処理，プレビューまで一貫した4Kシステムを導入し、この4Kシステムを武器に海外進出や日本国内ケーブルテレビとの連携ビジネスを拡大しています。この取組みは、総務省のモデル事業としても認められています。また地元への貢献を目指しており、「JIMOTTO(じもっと)」をスローガンに各種イベントや事業展開を行っています。イベント運営は「全社体制」をモットーに、全従業員がスタッフとして“おもてなし”する「OAB感謝祭」などを実現しています。このイベント運営のノウハウ活かし、大分県や大分市から委託を受けて婚活事業で地元の活性化を図るなど、放送局として珍しい取組みです。

また「全社体制」のモットーはイベントのみならず、地震や台風などの緊急事態の報道の際にも営業，総務，報道など部門の垣根を越え、各社員が自身の手伝える業務を分担し、迅速な報道を行うことにも生かされています。

2日間、駆け足での福岡/大分の視察ではありましたが、普段、あまり接することのない製造工場や放送局を実際に視察することができ、とても有意義な経験となりました。快く企業視察を受け入れて頂きました株式会社三松と大分朝日放送株式会社の両社に感謝するとともに、両社の社員の方々の暖かな配慮や明るい挨拶に、自分達の足元を見直す機会ともなりました。